

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

放送業務委員会（第 42 回）議事概要（案）

日時：令和 3 年 10 月 4 日（月）15:00～16:10

場所：Web 会議(Webex)

出席者：

都竹主査（名城大学）、伊丹主査代理（東京理科大学）
 赤羽専門委員（NTT 未来ねっと研究所）、浦野専門委員（日本テレビ放送網(株)）、
 岡村専門委員（(株)テレビ朝日）、児玉専門委員（(一社)電波産業会）、
 下地専門委員（パナソニック(株)）、寺田専門委員（日本放送協会）
 西田専門委員（日本放送協会）、廣野専門委員（(株)フジテレビジョン）、
 深澤専門委員（(株)TBS テレビ）、藤井専門委員（日本放送協会）
 三木専門委員（三菱電機(株)）、山影専門委員（東芝インフラシステムズ(株)）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課
 近藤課長、武馬技術企画官、高橋補佐、高橋係長、伊地知官

【配布資料一覧】

資料 放-42-1	放送業務委員会(第 41 回)議事概要(案)
資料 放-42-2	2021 年 10 月 ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合の概要
資料 放-42-3	<u>放送業務 WG における検討結果</u>
資料 放-42-4	<u>外国寄与文書審議表(案)一覧</u>
資料 放-42-5	<u>日本寄与文書(案)一覧</u>
資料 放-42-6	<u>ITU-R SG6 関連会合への対処方針(案)</u>
資料 放-42-7	今後の検討スケジュール(案)
資料 放-42-8 (参考資料)	国際電気通信連合(ITU)2023 年世界無線通信会議(WRC-23)の議題一覧(第 146 回情報通信審議会情報通信技術分科会資料一部抜粋)
資料 放-42-9 (参考資料)	放送業務委員会構成員名簿
資料 放-42-10 (参考資料)	2021 年 3 月 ITU-R SG6 会合後に承認された勧告等

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

議事概要

1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

2. 前回議事概要の確認

都竹主査より、資料 放-42-1「放送業務委員会（第41回）議事概要（案）」に基づき、第41回放送業務委員会の議事概要案が確認された。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省HPに掲載することとなった。

3. ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合への対処について

3.1. ITU-R SG6 関連会合の概要について

事務局より、資料 放-42-2「2021年10月ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合の概要」に基づき、次回のSG6 関連会合の概要が説明された。

3.2. 外国寄与文書への対処案について

西田専門委員（放送業務 WG 主任）より、資料 放-42-3「放送業務 WG における検討結果」及び資料 放-42-4「外国寄与文書審議表（案）一覧」に基づき、外国寄与文書の審議表案が説明され、案のとおり承認された。今後提出される外国寄与文書への対処については、審議表案を作成してメールにて審議を行うことが主査より提案されて承認された。

3.3. 日本寄与文書案について

西田専門委員より、資料 放-42-3「放送業務 WG における検討結果」及び資料 放-42-5「日本寄与文書（案）一覧」に基づき、日本から提出される予定の寄与文書案が説明され、質疑の後、それぞれ案のとおり承認された。質疑の概要は次のとおり。

【A2 レポート ITU-R BT. 2343-6 改訂案 DTT ネットワークによる UHD TV 野外実験のコレクション】

浦野専門委員：フィールド実験のパラメータが既存の帯域幅となっており、日本の次世代方式として検討されている帯域幅と違っているが、実際の会合ではどのように説明するのか。

西田専門委員：あくまでも実験で用いたパラメータであり、日本の次世代方式とは切り離れた技術実験の報告として承知してもらえば良い。寄与文書自体にも日本の方式については触れていない。

情報通信審議会では日本の次世代方式の審議が行われており、要求条件の中にチャンネルボンディングの記載がある。

【B2 新勧告草案 ITU-R BT. [ARCH4IMMERSIVE]に向けた作業文書の提案「さまざまな端末で表示するイマーシブ映像のためのシステムアーキテクチャ」】

都竹主査：6DoF に関係する寄書は今回初めて提出するのか。

西田専門委員：今回の提案はシステムアーキテクチャに関するものであるが、WP6C にユースケースをまとめたレポートがあり、6DoF も紹介されている。

【B3 レポート ITU-R BT. 2400-3 改訂提案「放送サービスのためのグローバルプラットフォームのユースケース・要求条件・技術要素」】

下地専門委員：放送と通信の双方に対してシームレスな再生ということだが、この点で日本は先行しているのか。他国でこの点に注力して取り組まれているところがあれば教えていただきたい。

西田専門委員：今回の提案と類似のものとしてはDVB-Iが同じようなことを狙っているものだと思う。日本が先行しているかどうかはわからないが、日本が本レポートに寄与したのは随分前であるため、DVBの方々がレポートの記載を見てDVB-Iにつながったのかもしれない。現在、DVBが熱心に取り組んでいるところである。

【C1 LFEチャンネルの課題に対するコメントと提案】

都竹主査：新しくLFEチャンネルの規定を行うということだが、周波数が低くてもスピーカーが沢山あると臨場感が増えるということか。

西田専門委員：勧告に記載のあるシステムは、1チャンネルのものもあれば、最大2チャンネルの場合もある。1チャンネルしか使わないシステムでは、特に場所は規定されておらず、2チャンネル使う場合でも、厳密に配置の角度が何度と決まっているわけではなく、ある程度許容範囲を持って規定されており、その点を明確化することが今回の提案である。チャンネル数とスピーカーの個数は別の話であるが、同じものだと考える人たちと別だと考える人たちの両方いて、明確化することになった。

3.4 ITU-R SG6、各WP、TG6/1 会合への対処方針案について

事務局より、資料 放-42-6「ITU-R SG6 及び各WP 会合への対処方針（案）」に基づき、会合への対処方針案が説明された。西田構成員より補足説明があった後、案のとおり承認された。

西田専門委員：放送業務WGでも指摘があったが、TG6/1 会合については、第一地域の話ではあるが、今後日本にも影響があるかもしれないため、動向は注意する必要がある。

4. その他

4.1. 今後のスケジュールについて

事務局より、資料 放-42-7「今後のスケジュール（案）」に基づき、今後のスケジュールが説明された。

以上